

総合診療部

生坂 政臣

千葉大学医学部創立135周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。当部も開設してから無事9年目を迎えることができましたが、ディズニーランドと成田空港以外に立ち寄ったことがなかった千葉という新天地で、卒業生でもない私がこれまで何とかやって来られたのは、千葉大同窓会ならびに諸先生方の力強いご支援のお陰です。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

2002年、赴任前の下見のために初めて病院を訪れた日、20坪の空き部屋に案内され、「ここで診療をして下さい」と言われて途方にくれたのが今では懐かしい思い出です。教授はひとりで何でもできないと務まらないと聞いてはいたものの、よもや総合外来の設計まで任されるとは夢にも思いませんでしたので。急遽、他大学の総合外来を見学して、やつつけ仕事で3つのブースを作り、診察室を兼ねたカンファレンスルームを一部屋ねじ込みました。「天下の千葉大病院の一角に素人の私が設計したものが存在しているのか」という疑問と不安を抱きながらの船出となったわけです。

ハード面はともかく、ソフト面では全国大学総合診療部の共通の悩みである医師確保を含めて大変恵まれていました。赴任前に務めていた大学病院で最も有能だった部下が3人も千葉に引っ越してくれたのです。彼らの献身的な働きによって、思い描いていた通りのスタートを切ることができました。総合診療部の診療の質は同施設の専門医のレベルに大きく依存します。専門科からの返信の知見を吸収しながら我々総合診療医は成長していくからです。その点、千葉大病院の専門医療レベルは非常に高く、今日の当部の診療の質がそれなりに評価されているとすれば、それは各専門科の診療レベルを間接的に反映しているにすぎません。

一方、全国に目を向けると、うまく運営されている総合診療部はむしろ少数派であり、多くの施設で苦境に立たされています。これは総合診療の原点がプライマリケアであり、それを高度医療機関で展開することに本質的な矛盾が存在することと無縁ではないでしょう。大学の新設総合診療部が発展するためには、この矛盾に向き合いながら将来性のあるニーズを掴んで実践することが必要です。赴任当

時、利用できたりソースが、狭い外来スペースとわずかな常勤ポストだったこともあり、外来教育に重点を置いた初診外来部門を開設することにしました。外来教育は前の施設で手応えを感じていましたし、また医療経済が厳しくなる中、病床削減や在院日数短縮により、医療が費用のかさむ病棟から外来へ診療がシフトしていく欧米の動きを見越しての判断でした。

それでも、ただの振り分け屋では若手に夢を与えることはできないので、初診外来で最も重要なスキルである、症候からの診断に力を入れました。具体的には、熟練医の診断推論プロセスをできるだけ言語化し、初学者でも実行可能なストラテジーを作成し伝授することです。これが若手に受け入れられるかどうかの最初の試金石は、開設2年目から開始した当部後期研修への応募状況でした。はたして病棟も救急もない、初診外来だけの当部に、どのくらいの若者が興味を持ってくれるのか心配でしたが、予想をはるかに超える応募数に安堵しました。また、競争を勝ち抜いて採用された血の気の多い後期研修医たちが、実際の外来研修に物足りなさを感じてしまうのではないかと心配しましたが、これも杞憂に終わりました。診療のデューティは午前・午後外来のみですが、カンファレンス参加や知識の整理に追われ、彼らの帰宅は深夜となり、土日祝日はこれまで収録された数百枚に及ぶ外来カンファレンスのDVDを利用した診断推論の研修で、へとへとになっている姿を見ては密かにほくそ笑んだものです。

唯一の気掛かりは、紹介状を持たない患者を対象としたプライマリケア外来であり、病診連携の強化によって病院が紹介患者だけを診るようになれば将来、総合診療部外来は不要になってしまうことでした。幸い、外来診断能力を死にものぐるいで高めた結果、県内はもとより全国から多くの患者が紹介されるようになり、昨年度の当部への紹介率は遂に6割を超えました。これは主として walk-in 患者を診る総合診療外来としては全国でも異例のことです。他院入院中の患者をストレッチャーで運び、外来で診断して同日中に病院へお戻しすることもしばしばで、病院が完全紹介制になっても当部外来の

ニーズは維持できるところまで何とかこぎ着けました。

一方，紹介患者の増加は稀な疾患や非典型例が集積することを意味し，コモンディジーズを対象としたプライマリケア研修は別立てで行なう必要性が生じるでしょう。これに対しては，いくつかの地域基幹病院から強く要望されている総合診療医をチームとして派遣し，病棟を含めたプライマリケア研修の場として活用することで乗り切る計画です。また，総合診療という漠然とした領域の学問体系確立のための研究も，次の10年で達成すべき目標と考えてい

ます。当部は後期研修医だけでなく，開業医や勤務医の先生方に対しても研修登録医制度を利用した生涯教育を提供していますが，外来ブースに限りがあり，ご希望に十分応えられていないのが現状ですが，教育スペースが確保された新外来棟設立により解決できるのではないかと期待しています。

以上，当部の生い立ちと近況を紹介させて頂きました。今後とも諸先輩方からのご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

(いくさか まさとみ)



平成23年7月31日 千葉GM合同カンファレンス主催担当教室員，東京国際フォーラムにて